

3月23日 三陸鉄道163km全区間で運転再開! 鉄路と心を繋ぐ仲間のたたかい



出向している仲間が再開に向けて試運転している様子

JR山田線・宮古・釜石間は三陸鉄道(三鉄)に移管され、3月23日にリアス線として開通しました。JR東日本会社の支援策の一つである「人的支援」として、JR東労組の仲間が三鉄に出向し、地域に希望を与える重要な役割を担っています。その仲間の苦勞を無駄にすることのないよう、3月19日、盛岡地本主催で三鉄出向者意見交換会が行われました。意見交換の冒頭で、釜石支部と地域のみなさんとの連携する取り組みによって鉄路での復興を



宮古連合分会「三鉄への出向の目的」

- ①被災した鉄路の復旧
- ②宮古の地にJR東労組の旗を残す
- ③エルダーの雇用先の確保

東日本大震災後の山田線復旧への釜石支部の取り組み

- 「山田線の鉄路による早期復旧を求める市町民の会」(宮古市、山田町、大槌町、釜石市)結成 ※現在は「地方ローカル線を守る市町民の会」として活動中
- 山田線沿線を中心にボランティア活動(JR東労組・釜石拠点ボランティアに各地本からも参加。継続した活動で述べ15,000人が参加)
- 地域と共に「被災したJR各線区の早期復旧を求める署名行動」では、40万7664筆を集約し、国土交通省への請願行動にて提出(2012年7月25日)
- 炊き出し、春のプレゼント行動
- 市民集会の企画、開催
- 沿線首長への請願行動
- 鉄路を残すために鉄道の利用促進を訴えるビラ撒き

現するに至ったことは一つの成果であること、JR東労組として労働組合の社会的責任と捉え返していくことが重要であることを確認しました。そして、宮古連合分会・滝野書記長から、東日本大震災以降の釜石支部の取り組み、三鉄出向への議論や、JR東日本と三鉄の労働条件の違いなど説明していただきました。その後、出向している仲間から厳しい労働条件について切実な声が出されました。年間休日数は、JR東日本は114日、三鉄は71日のため、年間では1ヵ月以上(43日)の日数を多く勤務しなければなりません。出向している仲間は163km全区間を乗務しますが、南側の釜石・盛岡および、北側の宮古・久慈間の三鉄の乗務員は、3月23日に移管される宮古・釜石間を乗務したことがないため全区間の乗務を行わないままでの再開



陸中山田駅

陸中山田駅に隣接する施設も再開を心待ちにしてる



になります。また、南側と北側では釣銭の準備額や無線が違うなど統一されていないことも多くあり、全区間を運転するにあたり非常に苦勞しています。全線再開は華々しく見えますが、もともと違う3区間が一つに繋がったことで、多くの課題が山積しています。安全を最優先にする職場風土をつくり上げるために、今後も出向者のみなさんとの意見交換を行い、地本と連携して改善に向けて取り組んでいきます。

ボランティア活動や署名活動をつくっていく場面での仲間との議論は、一足飛びにはいきませんでしたが、特に出向活動を行うときに、組合員への提起はすくなく難しくなっています。被災の程度が一人ひとり違う中、家族を亡くされた組合員や被災とは無関係の組合員では「大変な時期にそのような気にはなれない」といつまでも被災者気分ではダメだ」など様々な想いや意見がありました。この壁を取り除くために、JR東労組の「ヒューマニズムに立脚した運動」という原点から始めました。結果とすれば

震災当時、ボランティア活動を行い、地域のみなさんと署名活動なども行って40万筆を超える署名を復興大臣に提出しましたが、その時どのような議論をされたのですか。

復興は進んでいるかと問われますが、公共事業などは、目に見えて進んでいる地域と、そうでないところが混在しているのが現実です。しかし、地域の皆さんは進んでいると信じて、前を向いていくしかないと思っています。



復興前(右)と後(左)の陸中山田駅

被災状況などに鑑み、活動可能な組合員が運動の中心を成すことで意見がまとまり、その後も議論を続け、支部全体の運動へ高めてきました。署名活動はボランティア活動が続ける中で、鉄道の必要性、復旧を希望している被災地の声を集めながら、「出来ることは何か」を明確にすることで運動としての広がりをつくり出すことが出来たと思います。また労働組合として、組合員の働く場所の存続と、JR東労組の旗を地域の中に残し、地域の運動を自分たちが主体的につくり出していくことも目的として位置づけていくことも仲間との議論で明確にしました。大きな運動は自分たちだけでできないこと、市民のみなさんの協力も必要だと議論になったことが特徴です。JR東労組の運動とそれを担う組合員の姿が市民からの信頼を得てきましたし、現在も継続されている被災線区を残す「市民の会」の活動は、これからは私たちと市民の連帯をつくる強い絆であることには変わりありません。「市民の会」の代表からは、「東労組がいなければ鉄路の復興はなかった」との言葉をいただき、自分たちの活動は間違いではなかったと、自信と確信、そして喜びを実感しました。鉄路を守る取組みは勿論ですが、これまで培った連帯と絆をこれまでの取組みの枠にはめるのではなく、様々な運動の領域でも一緒に活動できるように動かし続けていきたいと思っています。



陸中山田駅近頃の防潮堤

三鉄に出向する決意はどのような議論があったのですか。

現在、私をはじめ運転・営業の仲間12名が三陸鉄道に出向しています。労働条件や業務の進め方の違いなど、戸惑いも多くありますが、毎日元気に頑張っています。組織を守り、沿岸地区にJR東労組の旗を残す、組合員のエルダーの職を残すためには何をしなければならぬのかという議論を進めました。その上で、これまで取り組んできた鉄路復旧のたたかい、復旧された鉄路に対し己が主体的に

何が出来るのかを何度も職場議論を重ね、一人ひとりが確定したことが力になったと思います。私自身は職場議論に加え、署名活動を行っていた時期、支部の委員長として仲間たちや地域の皆さんから多くの協力を得てきた事に対する感謝の意味でも出向の意思を固めました。これからは仲間たちとの議論を土台に、安全な鉄道、働きやすい環境をつくるために取り組んでいきたいと思えますし、地域の皆さんと共に様々な運動にも全力で向かっていきたいと決意を新たにしています。3月23日に日本最長の第三セクター鉄道が誕生しましたが、地域の声はいかがですか。開業直後の現在は、その喜びと、復興に対しての期待の声が数多く聞こえています。しかし、鉄道が復旧しても赤字が続ければ自治体の負担は増えるし、将来に対し継続して残すことができるのかなどの、不安視する声があることも事実です。私たちはこれまでに培った地域との連帯を基礎に、地方鉄道の未来を切り拓くための運動づくりに地域の皆さんと一緒に悩み、考えながら進めていきます。最後にJR東労組組合員にメッセージをお願いします。

今は感謝の気持ちでいっぱいです。ボランティア、春のプレゼント、そして署名活動、これらは12地本の多くの組合員、仲間が心と力を合わせることで、協力があったからこそやり切ることができましたし、鉄路の復旧が実現しました。そして、運動を通じて得ることができた「市民の会」の皆さんや、市民の皆さんからの信頼は、JR東労組の「ヒューマニズムに立脚した運動」があったからです。今、JR東労組は発足以来最大の危機にさらされています。厳しい道のりはまだまだ続きますが、JR東労組運動を信じ、仲間を信じ、心と力を一つに、未来を切り拓くためにすべきことを明確にし、できることを一つひとつ積み上げながらたたかいて進んでいきましょう。本州最東端の「東の地」から共にたたかいます。

最後にJR東労組組合員にメッセージをお願いします。



復旧したリアス線開通

繋がった鉄路と心が二度と途切れることのないよう、心を一つに ヒューマニズムに立脚したJR東労組運動を推し進めていこう!